

令和8年度 「物理基礎」学習の手引き（シラバス）

学科	メカニカル工学科、電気科、建築科		学年	1	履修	必修	
教科	理科	科目名	物理基礎	単位数	2	時数	70
教科書名（発行所）	高等学校 改訂新物理基礎（第一学習社）		副教材（発行所）	改訂プログレス物理基礎（第一学習社）			
目標	日常生活との関連を図りながら、身近な現象の中における物理的な法則や規則性について学び、科学的な見方や考え方を養う。						

（注）評価の観点は、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめり	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	運動とエネルギー	物体の運動	運動の表し方 ・ 速度・加速度 等速運動 等加速度運動 ・ 重力加速度と落体の運動 を理解し身に着ける	○	○	○	18	
	5			力と運動の法則	運動の法則 ・ 力とそのはたらき・ 力のつりあい ・ 運動の法則 ・ 摩擦を受ける運動 ・ 液体や気体から受 を理解し身に着ける	○	○		
	6		仕事と力学的エネルギー		仕事と力学的エネルギー ・ 仕事・運動エネルギー・位置エネルギー ・ 力学的エネルギーの保存 を理解し身に着ける	○	○		
	7			熱	熱とエネルギー ・ 熱と熱量・熱と物質の状態・熱と仕事・不可逆変化と熱機関	○	○		
2	8	波動	波の性質 ・ 波と媒質の運動・波の伝わり方 音 ・ 音の性質・発音体の振動と共振・共鳴		○	○	○	32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元ごとの課題</li> <li>・ 口答による重要事項の確認</li> <li>・ 授業に取り組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・ 長期休業中の課題</li> <li>・ 定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	9		電荷と電流	物質と電気抵抗 ・ 電気の性質・電流と電気抵抗・電気とエネルギー	○	○	○		
	10	電流と磁場		磁場 モーターと発電機 交流と電磁波 ・ 交流・電磁波	○	○	○		
3	11		エネルギーとその利用	エネルギーとその利用 ・ 太陽エネルギーの利用・原子核と放射線・原子力の利用	○	○	○	20	
	12	物理学が拓く世界 ・ 新幹線と空気抵抗・橋の構造と力学・自動車拓く未来・ICカード		○	○	○			

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	45
Ⅱ 思考・判断・表現	10	80	10		100	45
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「科学と人間生活」学習の手引き（シラバス）

学科	メカニカル工学科、電気科、建築科		学年	1	履修	必修	
教科	理科	科目名	科学と人間生活	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）	改訂版 科学と人間生活（数研出版）		副教材（発行所）				
目標	自然の事物・現象に関する実験や観察などを行い、これらについて理解させるとともに、人間と自然のかかわりについて考察させ、自然に対する総合的な見方や考え方を養う。						

（注）評価の観点は、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	物質の科学	材料とその再利用	・金属 ・プラスチック ・資源の再利用 の理解を深める	○	○	○	9	
	5								
	6								
	7								
2	8	生命の科学	衣料と食品	・衣料 ・食品 ・植物と光 ・ヒトの視覚と光 の理解を深める	○	○	○	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	9								
	10								
3	11	生命の科学	人の生命現象	遺伝情報とDNA 血統濃度とホルモン 免疫 眼 光 の理解を深める	○	○	○	10	
	12								
	1								
3	2	生命の科学	微生物とその利用	微生物の発見 発酵食品への利用 乳酸発酵とアルコール発酵 医薬品、生態系、環境浄化と微生物 の理解を深める	○	○	○	10	
	3								

35

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	45
Ⅱ 思考・判断・表現	10	80	10		100	45
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「化学基礎」学習の手引き（シラバス）

学科	商業科	学年	1	履修	必修
教科	理科	科目名	化学基礎	単位数	3
教科書名（発行所）	改訂新編 化学基礎（東京書籍）		副教材（発行所）	新インプレス 化学基礎ノート（浜島書店）	
目標	化学的な事象・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を持てるようにする。				

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	物質の構成	物質の成分 物質の構成元素	物質を採求するために、まず物質の分類の仕方、目的とする物質を取り出す方法を学ぶ。 【実験 赤ワイン蒸留】 【実験 硫黄の同素体】 【実験 炭素反応】	○	○	○	42	
	5	物質の構成	物質の三態	物質の三態変化について学ぶ。 【実験 液体窒素】					
	6	物質の構成	原子の構造 電子配置と周期表	物質は、各元素に対応した原子で構成されている。原子の構成と、元素の分類方法について学ぶ。 【実験 アルカリ金属】					
	7	物質の構成	化学結合	物質は、原子・分子・イオンといった粒子が互いに化学結合をすることによって成り立っている。様々な化学結合について学ぶ。 【実験 電解質・非電解質】 【実験 ドライアイス】					
2	8	物質の変化	原子量・分子量・式量	原子のように、目に見えないほど小さいものの質量を、分かりやすく扱うにはどのようにすればよいのか。	○	○	○	42	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	9	物質の変化	物質質量 溶液の濃度	原子・分子の粒子は非常に小さい。粒子を一山にして考える物質質量の概念を学ぶ。					
	10	物質の変化	化学反応の表し方 化学反応の量的関係	化学変化は原子の組み合わせが変化し、原子の個数は変わらないことを理解させ、化学反応式の係数が物質量の比になっていることを理解する。 【実験 反応の量的関係】					
	11	物質の変化	酸と塩基 水素イオン濃度とpH	酸・塩基の定義、性質などを理解させ、化学変化との関連性を持たせる。pHの数値の表す意味を理解させる。 【実験 pHの測定】 【実験 酸の性質】					
	12	物質の変化	中和反応と塩の生成 中和滴定	中和反応を理解する。反応する酸または塩基の水溶液の濃度を実験で求めることができる。その原理と具体的な実験方法を学習する。 【実験 中和滴定】					
3	1	物質の変化	酸化と還元 酸化剤と還元剤	酸化還元反応の知識を確認し、酸素以外の、水素や電子の授受に拡張できることを確認する。酸化剤・還元剤の動きについて知る。 【実験 酸化・還元】	○	○	○	21	
	2	物質の変化	金属の酸化還元反応	金属同士を比較して、イオンになりやすい方となりにくい方があることを理解。イオン化傾向、イオン化列について学ぶ。 【実験 イオン化傾向】 【実験 電気分解】					
	3	物質の変化	酸化還元反応の応用	イオン化傾向と電流の流れる向き、電池発展の歴史、様々な実用電池の種類と特性を学ぶ。 【実験 電池作り】					

105

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25	50	25		100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「化学基礎」学習の手引き（シラバス）

学科	生活福祉科、食物栄養科		学年	1	履修	必修	
教科	理科	科目名	化学基礎	単位数	2	時数	70
教科書名（発行所）	改訂新編 化学基礎（東京書籍）		副教材（発行所）	新インプレス 化学基礎ノート（浜島書店）			
目標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を持てるようにする。						

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	化学と人間生活	物質の成分 物質の構成元素	混合物と純物質、混合物の分離 【実験 赤ワイン蒸留】	○	○	○	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	5	化学と人間生活	物質の三態	物質の三態 【実験 液体窒素】					
	6	物質の構成	原子の構造 電子配置と周期表	元素と元素記号、単体と化合物、同素体【実験 硫黄の同素体】 電子配置、周期表 【実験 アルカリ金属】					
	7	物質の構成	化学結合	イオン、イオン結合、組成式 【実験 電解質・非電解質】 金属と金属結合、分子と共有結合、構造式 結晶の種類と特徴 【実験 ドライアイス】					
2	8	物質の変化	化学反応式 酸と塩基	反応の量的関係 【実験 反応の量的関係】 酸と塩基、酸と塩基の強さ	○	○	○	28	
	9	物質の変化	水素イオン濃度とpH	水素イオン濃度とpH、指示薬とpHの測定【実験 pHの測定】					
	10	物質の変化	中和反応と塩の生成	中和反応と塩の生成					
	11	物質の変化	中和滴定	中和反応の量的関係、中和滴定 【実験 中和滴定】					
	12	物質の変化	酸化還元反応	酸化と還元、酸化数、酸化剤と還元剤 【実験 酸化・還元】					
3	1	物質の変化	酸化還元反応	金属のイオン化傾向 【実験 イオン化傾向】	○	○	○	14	
	2	物質の変化	酸化還元反応	電池 【実験 電池作り】					
	3	物質の変化	酸化還元反応	電気分解 【実験 電気分解】					

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25	50	25		100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「科学と人間生活」学習の手引き（シラバス）

学科	生活福祉科、食物栄養科		学年	1	履修	必修	
教科	理科	科目名	科学と人間生活	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）	改訂版 科学と人間生活（数研出版）		副教材（発行所）	なし			
目標	自然の事物・現象に関する実験や観察などを行い、これらについて理解させるとともに、人間と自然のかかわりについて考察させ、自然に対する総合的な見方や考え方を養う。						

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	物質の科学	材料とその再利用	・金属 ・プラスチック ・資源の再利用 の理解を深める	○	○	○	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	5								
	6								
	7								
2	8	衣料と食品	・衣料 ・食品 ・植物と光 ・ヒトの視覚と光 の理解を深める	○	○	○	16		
	9								
	10								
3	11	ヒトの生命現象	遺伝情報とDNA 血統濃度とホルモン 免疫 眼 光 の理解を深める	○	○	○	10		
	12								
	1								
3	2	微生物とその利用	微生物の発見 発酵食品への利用 乳酸発酵とアルコール発酵 医薬品、生態系、環境浄化と微生物 の理解を深める	○	○	○	10		
	3								

35

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25	50	25		100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「科学と人間生活」学習の手引き（シラバス）

学科	メカニカル工学科、電気科、建築科		学年	2	履修	必修	
教科	理科	科目名	科学と人間生活	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）	科学と人間生活（数研出版）		副教材（発行所）				
目標	自然の事物・現象に関する実験や観察などを行い、これらについて理解させるとともに、人間と自然のかかわりについて考察させ、自然に対する総合的な見方や考え方を養う。						

（注）評価の観点とは、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	光や熱の科学	光の性質とその利用	・光 ・電磁波 ・電磁波の利用	○	○	○	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	5								
	6								
	7								
2	8	宇宙や地球の科学	太陽と地球	日本の土気と自然災害 大気の大循環 地球を出入りするエネルギー 太陽放射	○	○	○	16	
	9								
	10								
3	11	自然景観と自然災害	日本列島とプレート 地震のしくみと活動、災害 マグマがつくる火山と災害 水のはたらきと景観、災害	○	○	○	10		
	12								
	1								
	2								
	3								

35

【観別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	45
Ⅱ 思考・判断・表現	10	80	10		100	45
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「化学基礎」学習の手引き（シラバス）

学科	メカニカル工学科、電気科、建築科		学年	2	履修	必修	
教科	理科	科目名	化学基礎	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）	改訂新編 化学基礎（東京書籍）		副教材（発行所）	新インプレス 化学基礎ノート（浜島書店）			
目標	化学的な事象・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を持てるようにする。						

（注）評価の観点とは、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	化学と人間生活	物質の成分 物質の構成元素	混合物と純物質、混合物の分離 【実験 赤ワイン蒸留】	○	○	○	9	
	5								
	6		物質の三態	物質の三態 【実験 液体窒素】					
	7								
2	8	物質の構成	原子の構造 電子配置と周期表	元素と元素記号、単体と化合物、同素体【実験 硫黄の同素体】 電子配置、周期表【実験 アルカリ金属】	○	○	○	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	9								
	10	化学結合	イオン、イオン結合、組成式【実験 電解質・非電解質】 金属と金属結合、分子と共有結合、構造式 結晶の種類と特徴【実験 ドライアイス】						
	11								
	12	物質の変化	物質質量	原子量と分子量、式量					
3	1	物質の変化	物質質量 溶液の濃度	物質質量 溶液の濃度 モル濃度	○	○	○	10	
	2								
	3								

35

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25	50	25		100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「物理」学習の手引き（シラバス）

学科	メカニカル工学科、電気科、建築科		学年	1	履修	必修	
教科	理科	科目名	物理	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）	高等学校 物理（第一学習社）		副教材（発行所）	新課程版スタディノート物理（第一学習社）			
目標	日常生活との関連を図りながら、身近な現象の中における物理的な法則や規則性について学び、科学的な見方や考え方を養う。						

（注）評価の観点は、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	運動とエネルギー	平面運動と放物運動	平面運動 放物運動	○	○	○	9	
	5								
	6		剛体のつり合い	剛体にはたらく力とその合力 剛体の重心とつり合い	○	○	○		
	7								
2	8		運動量の保存	運動量の保存 運動量保存の法則 反発係数	○	○	○	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	9								
	10		円運動と単振動	円運動 慣性力と遠心力 単振動 万有引力による運動	○	○	○		
	11				気体の性質と分子運動	気体の法則 気体の分子運動 気体の内部エネルギーと仕事	○		
3	12	波動	波の性質	正弦波			○	○	○
	1			波の伝わり方	○	○	○		
	2		音波	音の伝わり方	○	○	○		
3	ドップラー効果	○		○	○				

35

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	45
Ⅱ 思考・判断・表現	10	80	10		100	45
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和7年度 「科学と人間生活」学習の手引き（シラバス）

学科	商業科		学年	2	履修	必修	
教科	理科	科目名	科学と人間生活	単位数	2	時数	70
教科書名（発行所）	改訂 科学と人間生活（東京書籍）		副教材（発行所）	改訂版 科学と人間生活サポートノート（数研出版）			
目標	自然の事物・現象に関する実験や観察などを行い、これらについて理解させるとともに、人間と自然のかかわりについて考察させ、自然に対する総合的な見方や考え方を養う。						

（注）評価の観点とは、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	物質の科学	材料とその再利用	・リサイクルとは何か ・金属の性質とその再利用 ・プラスチックの性質とその再利用 の理解を深める	○	○	○	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取組む姿勢、意欲、出欠</li> </ul>
	5		衣料と食品	・衣料の科学 ・食品の科学 の理解を深める					
	6	微生物とその利用	・さまざまな微生物 ・私たちの暮らしへの微生物の利用 の理解を深める						
	7	生命の科学	ヒトの生命現象	・ヒトの視覚と光による影響 ・血糖濃度を調整する仕組み ・体を守る免疫のしくみ ・生命現象の大もととなる遺伝子のはたらきの理解を深める					
2	8	光や熱の科学	光の性質とその利用	・光の進み方とその基本的な性質 ・目に見える光と色の見え方 ・目に見えない光とその利用 の理解を深める	○	○	○	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul>
	9		熱の性質とその利用	・熱とは何か ・エネルギーの利用と私たちの暮らし の理解を深める					
	10		宇宙や地球の科学	太陽と地球					
3	11	宇宙や地球の科学	自然景観と自然災害	・身近な自然景観の成り立ち ・自然災害と防災 の理解を深める	○	○	○	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・以上を点数化し、総合的に評価する。</li> </ul>
	12		1	2					

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25	50	25		100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「科学と人間生活」学習の手引き（シラバス）

学科	生活福祉科、食物栄養科		学年	2	履修	必修	
教科	理科	科目名	科学と人間生活	単位数	1	時数	35
教科書名（発行所）	科学と人間生活（数研出版）		副教材（発行所）	なし			
目標	自然の事物・現象に関する実験や観察などを行い、これらについて理解させるとともに、人間と自然のかかわりについて考察させ、自然に対する総合的な見方や考え方を養う。						

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	光や熱の科学	光の性質とその利用	・光 ・電磁波 ・電磁波の利用	○	○	○	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	5								
	6								
	7								
2	8	宇宙や地球の科学	熱の性質とその利用	・温度と熱運動 ・熱容量と比熱 ・エネルギー	○	○	○	16	
	9								
	10								
3	11	自然景観と自然災害	太陽と地球	日本の土気と自然災害 大気の大循環 地球を出入りするエネルギー 太陽放射	○	○	○	10	
	12								
	1								
3	2	自然景観と自然災害	自然景観と自然災害	日本列島とプレート 地震のしくみと活動、災害 マグマがつくる火山と災害 水のはたらきと景観、災害	○	○	○	10	
	3								

35

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25	50	25		100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「生物基礎」学習の手引き（シラバス）

学科	生活福祉科、食物栄養科		学年	2	履修	必修	
教科	理科	科目名	生物基礎	単位数	2	時数	70
教科書名（発行所）	改訂版 高等学校 生物基礎（数研出版）		副教材（発行所）	スタディアップノート 生物基礎（数研出版）			
目標	身近な現象、事例を通して、生物や生物現象についての関心を高め、生物学的に探求する能力や姿勢を身に付けるとともに、生物学の基本的概念を理解することで、科学的な考え方を身に付ける。						

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	生物の特徴	生物の特徴	多様性と共通性	○	○	○	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	5			エネルギーと代謝					
	6			呼吸と光合成					
	7			遺伝子とDNA					
2	8	ヒトの体内環境の維持	ヒトの体内環境の維持	遺伝情報の複製と分配	○	○	○	28	
	9			体内での情報伝達と調節					
	10			遺伝情報の発現					
	11			体内環境の維持の仕組み					
	12			免疫のはたらき					
3	1	生物の多様性と生態系	生物の多様性と生態系	植生と遷移	○	○	○	14	
	2			植生の分布とバイオーム					
	3			生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全					

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25	50	25		100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「化学基礎」学習の手引き（シラバス）

学科	メカニカル工学科、電気科、建築科		学年	3	履修	必修	
教科	理科	科目名	化学基礎	単位数	2	時数	70
教科書名（発行所）	新編 化学基礎（東京書籍）		副教材（発行所）	新インプレス 化学基礎ノート（浜島書店）			
目標	化学的な事物・現象についての観察、実験などを行い、自然に対する関心や探求心を高め、化学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な自然観を持てるようにする。						

（注）評価の観点は、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 （実習項目）	単元の目標 （具体的目標）	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	物質と化学反応式	物質 溶液の濃度	原子量と分子量、式量、物質 溶液の濃度、モル濃度、化学反応式				20	
	5								
	6								
	7								
2	8	酸と塩基	化学反応式 酸と塩基	反応の量的関係 酸と塩基、酸と塩基の強さ				28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	9								
	10		水素イオン濃度とpH	水素イオン濃度とpH 指示薬とpHの測定	○	○	○		
	11								
	12	中和反応と塩の生成	中和反応と塩の生成 【実験】中和滴定						
3	1	酸化還元反応	酸化と還元	酸化と還元 酸化数と酸化還元反応				22	
	2		酸化剤と還元剤	酸化剤と還元剤 電子の授受と酸化還元反応式 酸化剤と還元剤のはたらきの強さ	○	○	○		
	3		金属の酸化還元反応	金属のイオン化傾向 金属の反応性 電池のしくみ					

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25	50	25		100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「物理」学習の手引き（シラバス）

学科	メカニカル工学科、電気科、建築科		学年	3	履修	必修	
教科	理科	科目名	物理	単位数	2	時数	70
教科書名（発行所）	高等学校 物理（第一学習社）			副教材（発行所）	新課程版スタディーノート 物理（第一学習社）		
目標	1 基本的な概念や原理・法則を体系的に学習する 2 観察・実験などを通して物理現象に親しみながら理解できるようにする 3 基礎的な概念や原理・法則の相互を関連させて系統的な理解まで高める 4 1～3を通して、科学的な自然観を育成する。						

（注）評価の観点とは、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	運動とエネルギー 波動	Ⅰ章 運動とエネルギー Ⅱ章 波動	Ⅰ章 運動とエネルギー 4節 円運動と単振動 5節 気体の性質と分子の運動 Ⅱ章 波動 1節 波の伝わり方 2節 音波 3節 光波	○	○	○	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	5								
	6								
	7								
2	8	電気と磁場	Ⅲ章 電気と磁場	Ⅲ章 電気と磁場 1節 電場と電位 2節 電流 3節 電流と磁場 4節 電磁誘導と交流	○	○	○	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	9								
	10								
	11								
3	12	原子	Ⅳ章 原子	Ⅳ章 原子 1節 電子と光 2節 原子と原子核	○	○	○	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	1								
	2								
	3								

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合評	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	45
Ⅱ 思考・判断・表現	10	80	10		100	45
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「生物基礎」学習の手引き（シラバス）

学科	商業科		学年	3	履修	選択	
教科	理科	科目名	生物基礎	単位数	2	時数	70
教科書名（発行所）	高等学校 生物基礎（数研出版）		副教材（発行所）	スタディアップノート 生物基礎（数研出版）			
目標	身近な現象、事例や実験を通して、生物や生物現象についての関心を高め、生物学的に探求する能力や姿勢を身に付けるとともに、生物学の基本的概念を理解することで、科学的な考え方を身に付ける。						

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	生物の特徴	生物の特徴	多様性と共通性 【実験・実習】顕微鏡の使い方の確認 【実験・実習】細胞の観察	○	○	○	20	
	5			エネルギーと代謝、呼吸と光合成 【実験・実習】酵素の性質					
	6			遺伝子とDNA 【実験・実習】DNAの抽出					
	7								
2	8	ヒトの体内環境の維持	ヒトの体内環境の維持	遺伝子とDNA	○	○	○	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取り組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	9			遺伝情報の複製と分配、遺伝情報の発現 【実験・実習】体細胞分裂の観察					
	10			体内での情報伝達と調節、体内環境の維持の仕組み、免疫のはたらき					
3	1	生物の多様性と生態系	生物の多様性と生態系	植生と遷移、植生の分布とバイオーム、生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全	○	○	○	22	
	2								
	3								

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25	50	25		100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「化学探究」学習の手引き（シラバス）

学科	食物栄養科	学年	3	履修	学校設定科目
教科	理科	科目名	化学探究	単位数	2
準教科書名（発行所）	新編化学（数研出版）		副教材（発行所）	なし	
目標	身近におこる現象を化学反応としてとらえ、なぜ？こうしたらどうなるだろう？など思考力を身に着けるとともに化学の教科書の後半から出てくる有機化合物（特に糖、アミノ酸、たんぱく質など食品）について、観察・実験を通して化学的に探究し考える力を養う。また、自ら問題意識を持って化学的な課題に取り組む態度を育てる。				

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	物質の構成	原子の構造と元素の周期表 化学結合 酸と塩基	1年のプランクがあるため、もう一度化学基礎の重要な部分および履修できなかった部分の復習を重点的に行う。 ・元素の周期表、原子の構造、イオン式、組成式の復習を行う。	○	○	○	20	
	5			・pHの実験を通して、酸・塩基の理解を深める。 ・化学で最も重要な物質量（モル）の復習をし、濃度や化学反応式およびそれに伴う、量的関係をしっかり定着するように学習を深める。					
	6			酸化還元反応 ・酸化還元反応について学び、酸化数の概念を学ぶ。					
	7	物質の状態 気体 溶液 ・気体の法則を学び、ボイル・シャルルの法則を理解する。 ・凝固点降下、沸点上昇について実験を通して学ぶ。 ・コロイドとは何か。どんな特徴があるかを学ぶ。							
2	8	物質の変化	化学反応の速さとしくみ 化学平衡	・反応速度について実験を通して学び、速度を上げる要因を考える。 ・ルシャトリエの原理を学び、条件を変えることで、平衡が移動する方向を理解させる。	○	○	○	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元ごとの課題</li> <li>・口答による重要事項の確認</li> <li>・授業に取組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>・長期休業中の課題</li> <li>・定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	9								
	10	有機化合物	脂肪族炭化水素 アルコールと関連化合物	・アルカンの名称や性質、反応、異性体について学ぶ。 ・アルケンやアルキンについて、付加反応、付加重合を説明 ・アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸の名称や性質、反応について学び、実験を通して理解する。					
11	・油脂はグリセリンのエステルあること、その種類が多いことを学ぶ。またセッケンは油脂のけん化によって生成することを理解する。 ・単糖類、二糖類、多糖類の分類と性質について学び、それらの関係について理解する。 ・タンパク質の性質とアミノ酸の種類や性質について学ぶ。								
3	1	高分子化合物	天然高分子化合物	・タンパク質の性質とアミノ酸の種類や性質について学ぶ。 ・食品の成分物質の種類や性質、体内での動きを理解する。	○	○	○	22	
	2								
	3								

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25	50	25		100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					

令和8年度 「生物探究」学習の手引き（シラバス）

学科	生活福祉科・食物栄養科		学年	3	履修	学校設定科目	
教科	理科	科目名	生物探究	単位数	2	時数	70
準教科書名（発行所）	生物（実教出版）		副教材（発行所）	スクエア最新図説生物2025（第一学習社）			
目標	身近な現象、事例を通して、生物についての関心を高め、探求する能力や姿勢を身に付けるとともに、生物の基本的概念を理解することで、科学的な考え方を身に付ける。						

（注）評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に学習に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	生物の進化	生物の進化	<ul style="list-style-type: none"> <li>生命の起源と生物の進化</li> <li>遺伝子の変化と多様性</li> <li>遺伝子の組み合わせの変化について理解する</li> </ul>	○	○	○	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元ごとの課題</li> <li>口答による重要事項の確認</li> <li>授業に取り組む姿勢、意欲、出欠</li> <li>長期休業中の課題</li> <li>定期考査、実力テスト</li> </ul> 以上を点数化し、総合的に評価する。
	5			<ul style="list-style-type: none"> <li>進化のしくみ</li> <li>生物の系統と進化</li> <li>人類の系統と進化について理解する</li> </ul>					
	6	細胞と分子	<ul style="list-style-type: none"> <li>生体物質と細胞</li> <li>タンパク質の構造と性質について理解する</li> </ul>						
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学反応にかかわるタンパク質</li> <li>膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質について理解する</li> </ul>								
2	8	生命現象と物質	代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>代謝とエネルギー</li> <li>呼吸と発酵</li> <li>光合成について理解する</li> </ul>	○	○	○	28	
	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>DNAの構造と複製</li> <li>遺伝情報の発現について理解する</li> </ul>					
	10	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報の発現と発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝子の発現調節</li> <li>発生と遺伝子発現</li> <li>遺伝子を扱う技術について理解する</li> </ul>					
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>刺激の受容</li> <li>ニューロンとその興奮について理解する</li> </ul>								
3	1	生物の環境応答	動物の反応と行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>刺激の受容</li> <li>ニューロンとその興奮について理解する</li> </ul>	○	○	○	22	
	2			<ul style="list-style-type: none"> <li>情報統合</li> <li>刺激への反応</li> <li>動物の行動について理解する</li> </ul>					
	3			<ul style="list-style-type: none"> <li>情報統合</li> <li>刺激への反応</li> <li>動物の行動について理解する</li> </ul>					

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義・実験・実習・発言・出欠	定期考査・小テスト	ノート・レポート・課題・プレゼン	その他	観点別合計	評価の比重
Ⅰ 知識・技能		100			100	70
Ⅱ 思考・判断・表現	25	50	25		100	20
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	50		50		100	10
評価の重点と注意	①授業や演習に取り組む意欲・態度 ②定期テストの結果と提出課題 ※欠課時数が規定を超えた場合は、別途検討する。					